

平成29年度 国立大隅青少年自然の家 教育事業
おおすみくん家 キッズたんけんたい③④

- 1 趣 旨 小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、遊んだり、協力したりする体験を通して、自分に自信を持てるようにするとともに、体験活動の好きな子供を育てる。
- 2 期 日 ①平成30年1月27日(土)～28日(日) 1泊2日
 ②平成30年2月 3日(土)～ 4日(日) 1泊2日
- 3 対象者 小学1・2・3年生
- 4 募集定員 40人
- 5 参加者 ①26人(申込者数27人)
 ②38人(申込者数39人)
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員



7 日程と主な活動

1 日 目		2 日 目	
10:00	・受 付	6:00	・起 床
10:30	・出会いのつどい ・オリエンテーション	7:30	・荷物の整理 ・朝 食(レストラン)
10:45	<チャレンジ1> 「ふれあいタイム」	9:00	<チャレンジ5> 「遊びリンピックにチャレンジ」 「室内ゲーム」 クライミング・ドッチボール
12:00	・昼 食(レストラン)	12:00	・昼 食(レストラン)
13:30	<チャレンジ2> 「錦江湾眺望ハイキング」	13:30	・ふりかえりタイム
15:00	<チャレンジ3> 「フィールドアスレチック」	14:00	・別れのつどい
18:00	・夕 食(レストラン)	14:30	・解 散
19:00	<チャレンジ4> 「どんぐりクラフト」		
20:00	・入浴, 就寝準備		
21:00	・就 寝		

8 事業運営について

今回は、基本的な生活習慣、季節に応じた自然体験活動、登山体験活動を位置付けプログラムを計画した。

- (1) 「早寝早起き朝ごはん」の実施や食事および寝具の準備、後片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣への意識を高められるようにした。
- (2) 山を散策しながらどんぐりや木の実を拾い、それを使ってクラフト活動を行うことで、自然とふれあう良さを体感できるようにした。
- (3) 錦江湾眺望ハイキングのチャレンジを通して、自然の素晴らしさを体感するとともに、登頂の達成感を味わえるようにした。



9 事業実際

(1) 基本的な生活習慣への意識付け

共同生活を通して、「自分のことは自分でする」を目標に、食事の準備や後片付け、寝具の準備、後片付け、整理整頓など生活体験を多く取り入れ、時間に余裕を持って取り組んだ。初めて自分で行う児童も多く、悪戦苦闘しながらも、しっかりと取り組んでいた。

(2) 錦江湾眺望ハイキング

錦江湾眺望ハイキングの活動を通して、自然の素晴らしさを体感するとともに、登頂の喜びを味わってもらう目的で実施した。途中「きつい」「足が痛い」という声も出てきたが、全員無事登頂することができた。登山へのチャレンジを通して、景色に感動し、達成感も味わうことができた。

(3) フィールドアスレチックにチャレンジ

ハイキングの帰りに、フィールドアスレチックにチャレンジした。丸太を渡ったり綱登りをしたりと全員楽しむことができた。途中「怖い」という子供も見られたが、何度もチャレンジして達成しようとする姿が見られたり、「頑張れ」という友達に声かけをしたりする場面が見られた。

(4) どんぐりクラフト

集めた材料を使って、思い思いのクラフト作りにチャレンジした。どんぐりや木の枝、松ぼっくりなどをうまく組み合わせ、個性豊かな作品ができあがった。完成後は、全作品を机の上に展示し、みんなで鑑賞した。鑑賞することで友達の作品の良さや自分の作品の良さに気付くことができた。

(5) 遊びリンピックにチャレンジ

遊びリンピックでは、割りばしダーツ、空き缶積み、紙ちぎり3種類のゲームを実施した。低学年でも簡単にできる内容で、参加した子供たちは真剣に取り組んでいた。空き缶積みでは、新記録が出るたびに歓声があがり、それぞれが目標を持って取り組む姿が見られた。

10 参加者の感想

- とんがり山はきつかったけど、最後まで頑張って登れて良かった。
- 布団やシーツを友達と協力してできた。
- 大きな声であいさつができた。
- ご飯を好き嫌いせずに残さず食べることができた。

11 成果

- 事業全体を通して、子供たちの交流を深め、協力し合うことの大切さを意識付けることができた。
- 3年生を班長にしたことで、リーダーとして責任感を養うことができた。
- ハイキングなどの自然体験活動を取り入れたことで、自然の素晴らしさを体感するとともに、自然への興味・関心を高めることができた。
- 親元を離れ、自分のことは自分で行う生活体験を通して、子供たちの自立心を養うことができた。

